

# 個別注記表

自平成〇〇年〇月〇日 至平成〇〇年〇月〇日

## 1. この計算書類は、「中小企業の会計に関する指針」によって作成しています。

### 2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

###### ア 時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法によって処理し、売却原価は移動平均法により算定しています。)

###### イ 時価のあるもの

移動平均法による原価法

##### ② 棚卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)を採用しています。ただし、原材料は最終仕入原価法を採用しています。

(会計方針の変更)

従来商品については最終仕入原価法による採用していましたが、当期から総平均法による原価法に変更しました。この変更による影響は軽微です。

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)は定額法)を採用しています。

##### ② 無形固定資産

定額法を採用しています。

#### (3) 引当金の計上基準

##### 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権について法人税法の規定による法定繰入率により計上するほか、個々の債権の回収可能性を勘案して計上しています。

##### 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額の当期負担分を計上しています。

##### 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職金規定に基づく期末要支給額により計上しています。

#### (4) その他計算書類の作成のための基本となる重要事項

##### ① リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

なお、未経過リース料総額は、×××千円であります。

##### ② 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式(又は税込方式)によっています。

### 3. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 ×××千円

### 4. 株主資本等変動計算書に関する注記

#### (1) 当該事業年度の末日における発行済株式の数

#### (2) 当該事業年度の末日における自己株式の数

#### (3) 当該事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

##### ① 平成〇〇年〇月〇日の定時株主総会において、次の通り決議されました。

配当金の総額	〇〇円
配当の原資	利益剰余金
一株当たりの配当額	〇円〇〇銭
基準日	平成〇〇年〇月〇日
効力発生日	平成〇〇年〇月〇日

#### (4) 当該事業年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

##### ① 平成〇〇年〇月〇日開催予定の定時株主総会において、次の通り決議を予定しております。

配当金の総額	〇〇円
配当の原資	利益剰余金
一株当たりの配当額	〇円〇〇銭
基準日	平成〇〇年〇月〇日
効力発生日	平成〇〇年〇月〇日

### 5. 重要な後発事象に関する注記

平成×年×月×日開催の取締役会において、〇〇〇を決議いたしました。

これによる影響額は、×××千円であります。

上記の通り報告いたします。

平成〇〇年〇月〇日

〇〇〇株式会社

代表取締役 〇〇〇